おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーできること、得意なことからー　　ＮＯ．６８

何か新しいことを始めようとした時、とりあえず、できそうなことから始めるタイプですか？それとも、あえて難しそうなことからチャレンジしていくタイプですか？ 私は不器用なので、何ごとも初級者コースから試してみて、ちょっとやってみて、できそうな手応えが持てたら、その気になっていくような気がします。でもその前に、誰かがやっている様子を、まずはじっくり見学すると思います。何でも器用にこなしてしまう人を見ると、羨ましいかぎりです。チャレンジしたい気持ちはあるんですけどね～。

さて、子ども達に目を転じてみたとき、日々、新しいことにチャレンジしなければならない場面が少なくないですよね。未経験なことがたくさんあるのですから、言ってみれば、毎日、何かしらの“初めて”があります。ぜひ、楽しい出来事として、経験を重ねていってほしいものです。

子ども達の中には、見様見真似するには器用さが十分でなかったり、内容や展開を飲み込むまでに時間がかかったりする子も少なくありません。そんな子ほど、成功体験をたくさん味わってほしいものです。あんずでも、活動や生活の支援の中で、「まずは、できることから、得意そうなことから始めてみましょう」と働きかけていくことが多いと思います。子どもも取り組みやすいので、特に違和感なく、当たり前のごとく進めているのですが、ここで気持ちよく掴んでほしい手応えがあるんです。大事な手応えです。

①最後までやりきる経験を重ねること。

器用でない子は、何ごとも最後まで取り組み切る経験が少なくなりがちです。何をどこまで頑張れば区切りまでいくのかの手応えを、身体でたくさん感じてほしいと思います。できることや得意なことで最後まで取り組む経験を重ね、“何かに取り組むってこういうこと”を知ってほしいと思います。以前お話しましたが、やらせたいことの“２歩手前から”がポイントです。

②“構えづくり”をたくさん経験できるように。

出されたものに「なになに？」「おもしろそうだな」と、前かがみになる場面をたくさん経験してほしいと思います。“やってみなくちゃわからない”と、突然目の前に出して驚かせるようなことは避けたほうが無難です。サプライズが楽しさではなく、懲りてしまうことにならないように。それには、同じこと、似たようなこと、説明がしやすいことから始めることをお勧めします。その小さなドキドキ感が、期待の“構えづくり”に繋がります。

③繰り返し取り組むことで上手になってほしい。

繰り返し取り組んで、まず飽きてしまうのは大人です。同じことを繰り返し楽しむのは、子どもの特権ですね。繰り返しながらスキルを磨いていき、少しずつ手際が良くなっていきます。それにじつは、同じことを繰り返しているほうが、ちょっとした違いにも気が付くものです。大人とは違いますよ。

というわけで、今できること、得意なことが確実になってくることで、子ども達は自然と背伸びをし始めます。小さな背伸びかもしれませんが、誰かに無理やり引っ張られるより、すっと気持ちいいはずです。その小さな背伸びを見逃さないようにしたいですね。私たち大人も、ストレッチくらいの背伸びが筋肉痛にならずにいいかもしれません。（Ｒ４．１）Ｋ